

平成 28 年度 第 2 回田原市まち・ひと・しごと創生連携会議
委員意見要旨

- (1) 田原市人口ビジョン・田原市まち・ひと・しごと創生総合戦略について
(2) まち・ひと・しごと創生関連事業の効果検証について

①雇用の創出・就労促進について

(1-2 企業立地の推進・三河港の振興)

- ・企業立地の推進・三河港の振興について、田原には公共埠頭がある。そこは現在水深 5.5mだが、これから 10mに変えていきたい。岸壁ができれば企業立地の推進・三河港の推進が加速し、多くの雇用を生み出すことができる。

(1-4 農畜水産業強化)

- ・平成 26・27 年度に田原市商工会と渥美商工会で花を一つの強みとして、小規模事業者の販路拡大の事業を行った。当初は花のアウトレット施設や体験学習農園といったハード面で整備をしていこうと考えたが、それだけでは花の販路拡大には限界があった。
- ・花き産業のビジネスモデルの創出は、産業が文化を作り出していくような大きな仕掛けを考え、地域の魅力を高めていくような取組にしたい。予定されている「日本一の花き産業に重点を置いたビジネスモデルの創出」について、商工会としても協力していきたい。
- ・日本一の土づくり推進について、環境、安全性の面の土づくりは当然大事なことである。新規就農者に対しては、収益が上がるような質の高い土地（農地）を用意していくことが望まれる。
- ・土地（農地）の評価により今後の農業に従事する人口の変化もありうる。
- ・農畜水産物による 6 次産業化・農商工連携の推進について、今までは事業者が直接農林水産省や経済産業省に相談し、サポート事業を行っていた。市が窓口になり、国に上手に繋いでいただきたい。

(1-7 サンテパークたはらの新たな魅力づくり)

- ・サンテパークたはらの新たな魅力づくりについて、サンテパークを農業公園と限定した事業が主である。他のスポーツやイベントを開催するなど、もう少し幅を広げた考え方をしたら集客力も上がり、もう少し高い目標値を掲げられる。

②定住・移住促進について

(2-2 サーファー等の移住促進)

- ・サーフトown構想は取組として面白い。田原市で若い選手を育て上げるとか、本腰を入れないと根付いていかない。サーフィンの裾野を拡大する取組に期待したい。

(2-3 空き家活用推進)

- ・空き家活用促進について、貸したい人と借りたい人の希望を丁寧にすり合わせれば、やり方次第で問題は解決する。
- ・空き家を活用することに対する市の動きが弱い。業者が空き家を見に行っても、個人情報を見せてもらうことはできない。市はもっと動くべきである。
- ・空き家問題は業者や行政だけで解決できるものではない。行政は横の繋がりも広くしていただきたい

い。

- ・高知県や新潟県では、空き家であれば調整区域の開発許可の規制緩和がされている。調整区域での空き家の開発許可について属人性を問わない例もある。愛知県は県で開発をするので、市が県に緩和してほしいということがまず大事であり、運用で変わることがある。

③若い世代の結婚・出産・子育ての希望実現について

(3-3 子育て支援)

- ・労働組合の活動として、期間従業員、共働きの夫婦、子どもがいる親、50歳以上の方といった幅広い方々と話をしている。共働き夫婦の子育て支援に対する意見が多い。「子どもを預けたいが、預けることができない。」「預けるところがあっても料金が高い。」というのが問題である。
- ・子どもを預けやすい環境を作れば、家を建てるとき田原市が選ばれやすいのではないかと。朝非常に早い時間、夜非常に遅い時間に預けられる施設がほしい。
- ・参加料金が安く、親子で参加できるスポーツ教室などがあれば、田原市に住みたいと思う人も増える。

④地域の魅力・住み良さの向上について

(4-2 幹線アクセス向上)

- ・渥美の先端（伊良湖）から豊橋市へ行くのに1時間程度かかる。幹線のアクセス向上を図っていただきたい。

(4-7 地域包括ケアシステムの構築)

- ・地域包括ケアシステムの構築の後見人の問題は、地域を含めてどういう形で解決していくのか。自治会は予防という形だが、事件が起きてから体制を構築するのか。校区・地域ごとにどう行うのか体制を決めていくべきである。